

令和元年6月27日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04274

研究課題名(和文) 若者によるサブカルチャーの受容 作品分析と質問紙調査

研究課題名(英文) THE ACCEPTANCE OF YOUTH SUB-CULTURE: The analyses of works and the questionnaire survey

研究代表者

諸井 克英 (MOROI, KATSUhide)

同志社女子大学・生活科学部・教授

研究者番号：80182286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、若者におけるサブカルチャー受容を支える心理学的機制を、コミックやアニメを中心として作品分析と質問紙調査によって解明することであった。

作品分析に関する現在の成果は、「『逢魔ヶ刻動物園』が描く変身の妄想的世界」として公刊した。ここで対象としたコミック『逢魔ヶ刻動物園』は、動物園という場固有の神秘性を巧みに利用した変身を軸に据え、『週刊少年ジャンプ』誌の「友情・努力・勝利」の3要素を具現化した。「質問紙調査」に関する成果の一端は、「コミック読書経験の基底にある性格特性」として公刊した。性格の「非誠実性」とコミックの「異界・現実界融合ストーリー」との間に有意な関係が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

作品分析により、コミックにとって作品が虚構世界を巧みに構成しているだけでなく、読者の現実世界との間の力動的相互関係性が重要であることが分かった。質問紙調査において「異界・現実界融合ストーリー」が基本的性格の一端と関連していたことと対応する。

今後、変身や異界の軸についてさらに多角的に考察すべきである。昔話で描かれる動物と人間の間の変身関係における文化差が存在するが(中村, 2006)、その他、わが国における御蔭参りなどの歴史文化現象(荻野, 1997)や、西洋社会におけるゾンビの変身(都留, 2014)など様々な変身のかたちがある。これらの社会心理学的な意味を系統的に位置づけるべきであろう。

研究成果の概要(英文)： The purpose of the research is to explore psychological mechanism underlying accepting sub-culture by the youth by comic works analyses and questionnaire survey. The results of comic works analyses to date was published as the paper "The Delusive World of Transforming Depicted by "Oumagadoki Zoo." The main theme of the comic work is the transformation caused by mystical experiences in the zoo. Importantly, it embodies three elements "friendship, efforts, and a victory" advocated by "Shonen Jump" which is the most popular weekly comic magazine. The results of the questionnaire survey was published as the paper "Experiences of Reading Comic Books and Basic Personality Traits." The correlation analyses indicated that conscientiousness inhibited reading comic books depicting fusion of underworld and actual world.

研究分野：社会心理学

キーワード：サブカルチャー コミック 性格

## 1. 研究開始当初の背景

いわゆる「読書離れ」や「活字離れ」の状況を受け、'08年に衆・参議院において全会一致で「国民読書年に関する決議」が採択され、'10年を「国民読書年」とし「国をあげてあらゆる努力を重ねる」ことが宣言された。出版業界の状況を見ると(全国出版協会・出版科学研究所, 2011)、「出版業界2兆円割れ」と話題になった'09年よりも、'10年においては出版物(書籍・雑誌)の推定販売金額、推定販売部数ともにさらに減少している。しかしながら、表紙や頁々に「マンガ的・アニメ的なイラスト」が添付された、10代若者層を主要読者とする「エンターテインメント小説」(一柳・久米, 2009)であるライトノベルの趨勢は例外といえる。この趨勢の背景には、ライトノベルが、小説形式メディアに留まらず、テレビ・アニメや映画・アニメ(DVD化も含め)、コミック、キャラクター商品、音楽CD(声優によるライブ・パフォーマンス)、ゲームなどにまたがる、複合メディア化された現象がある。つまり、メディア・ミックス化した「ライトノベル-アニメ-コミック」は、読書行動の単なる延長にあるのではなく、サブカルチャーとして、若者層を中心として受容されている。

申請研究では、「ライトノベル-アニメ-コミック」を軸としたサブカルチャーの若者による受容を支える心理学的機制を「作品分析」と「質問紙調査」という異なる方法を連関させながら明らかにする。この分野ではいわば「作品分析」や「文化評論」的作業に偏重しており、種々の提起されている種々の「言説」を「心理学的仮説」として実証的検討を加えることは大きな意義がある。

申請研究では、2000年以降(「ゼロ年代」と呼ばれる)のわが国の若者をターゲットとして創出された「ライトノベル-アニメ-コミック」の相互関連メディアを対象として、これらのメディア創造物を受容する若者の心性の基底にある心理学的機制の解明を試みた。

批評家の宇野(2008)によれば、メディア創造物の基底には、わが国の'90年代のバブル経済の崩壊と冷戦の終結に伴う「自由だが冷たい(わかりにくい)社会」への直面に曝された若者の心理的状況がある。このような状況の中で、『主人公と恋愛相手の小さく感情的な人間関係(『きみとぼく』)』を『世界の危機』『この世の終わり』といった『大きな存在論的な物語に直結させる想像力』を物象化させた「セカイ系」の出現(「最終兵器彼女」など)、「コミュニケーションとしての作品消費」という新たなパラダイムである「コミュニケーション消費系」(「けいおん!!」など)の流れが指摘されている。さらに、現実の家族変容や危機を背景として「こころの傷=心的外傷」を中心にしたストーリーが展開される「ココロ系」の一群も存在する(「プギーポップは笑わない」など)。

申請研究では、このような2000年以降のアニメ・メディアミックスの状況を解析するとともに、「作品分析」や当該作品の若者の受容形態に関する「質問紙調査」を通して、「セカイ系」、「ココロ系」や、「コミュニケーション消費」概念の心理学的検証作業に取り組むことにした。

## 2. 研究の目的

申請研究の目的は、わが国におけるコミック・アニメの隆盛を若者によるサブカルチャー(下位文化)受容の観点から捉え、「作品分析」と「質問紙調査」を駆使しながら、サブカルチャー受容の基底にある心理学的機制を実証的に解明することである。

「作品分析」では、2000年を境にしたコミック・アニメが描き出す「虚構世界」の変容を「現実」の変容すなわち世界の変化やわが国の変化と対応づけながら検証する。また、「質問紙調査」では、コミック・アニメによって2000年以降(「ゼロ年代」)に描かれる「虚構世界」の若者による受容が若者の個人的傾性とどのように対応しているかを実証的に検討する。

3年にわたりこのような作業に取り組み、今やわが国の重要な「輸出産業」とも位置づけられるコミック・アニメ隆盛の社会心理学的規定因を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

「作品分析」では、2000年を境にしたコミック・アニメが描き出す「虚構世界」の変容を「現実」の変容すなわち世界の変化やわが国の変化と対応づけながら検証した。また、「質問紙調査」では、コミック・アニメによって2000年以降(「ゼロ年代」)に描かれる「虚構世界」の若者による受容が若者の個人的傾性とどのように対応しているかを実証的に検討した。このような作業に取り組み、今やわが国の重要な「輸出産業」とも位置づけられるコミック・アニメ隆盛の社会心理学的規定因の一端を明らかにした。

## 4. 研究成果

3年間にわたる研究作業に関する現時点の実績として、論文2点、コミックやアニメを直接的に取り扱ったものではないが現実界と異世界との関係性から動物園を対象とした単行本1冊を公刊した。また、流通しているコミックやアニメを幅広く収集し、サブカルチャー論に関する著述にも多く触れた。これらを踏まえ、今後も今回の主題に関する研究成果を公刊する予定である。

論文「『逢魔ヶ刻動物園』が描く変身の妄想的世界」(諸井克英・古性摩里乃, 2018)

対象としたコミック『逢魔ヶ刻動物園』は、「動物園」という場固有の「神秘性」を巧みに利用した変身を軸に据え、『週刊少年ジャンプ』誌の「友情・努力・勝利」の3要素を具現化した。都留(2015)による「リアリティ」概念からも、読者を「異世界」に連れ出し、「世界観を共有させる」ことに成功していると判断できよう。

「動物園」がもつある種の「神秘性」を基盤としているがゆえに、『逢魔ヶ刻動物園』の短期連載は、いわば娯楽施設の所謂多様化の中での「動物園」の衰退(古性・諸井, 2017)と関連しているかもしれない。「動物園」施設への来訪の減少は、都留(2015)が重視する「共通項」をもたらさなくなるからである。

論文「コミック読書経験の基底にある性格特性」(諸井克英・板垣美穂, 2018)

女子大学を対象として、コミック接触経験と基本的性格特性(和田, 1996)との関係を探索した。コミック接触経験尺(独自に開発)と Big Five 尺度短縮版(和田(1996)を改変)が女子大学生(N=331)に実施された。

クラスター分析や主成分分析によって、次の3クラスターが抽出された。「異界と現実界の融合」、「少女や女性のための恋愛ストーリー」、「探偵・冒険ストーリー」。相関分析によると、誠実性特性は、「異界と現実界の融合」に関するコミックの読書経験と関連していた。コミック接触経験の心理学的影響について論議した。

単行本『動物園の社会心理学』(諸井克英・古性摩里乃, 2018)

本書は、「第 部 動物園が果たす社会心理学的役割」と「第 部 地方動物園が抱える諸問題と地域での役割」、さらに「付論 虚構世界における動物園」から構成される。3つの章から成る「第 部」(第1章, 第2章, 第3章)では、動物園がもつ存在意義に触れた上で、動物園の魅力高揚に対する社会心理学的視点からの言及が行われた。さらに、動物園の魅力に関わる社会心理学的メカニズムを解明する実証的研究も試みた。これらを踏まえて、動物園で飼育されている動物のいのちの問題も考察された。

続く「第 部」は、動物園がもつ地域での役割に関して言及した2つの章から成る(第4章, 第5章)。現場観察も交えながら考察を展開し、姉妹都市提携に伴う所謂動物交流の問題についても論議した。「付論」では、「第 部」と「第 部」で対象とした現実の動物園とは異なり、コミックという謂わば虚構世界で描かれた動物園の社会心理学的意義を論じた。

## 5. 主な発表論文等

- ・ 諸井克英・古性摩里乃「『逢魔ヶ刻動物園』が描く変身の妄想的世界」  
総合文化研究所紀要(同志社女子大学), 2018, 35, 256-263.
- ・ 諸井克英・板垣美穂「コミック読書経験の基底にある性格特性」  
生活科学(同志社女子大学), 2018, 52, 12-20.
- ・ 諸井克英・古性摩里乃『動物園の社会心理学』  
2018, 晃洋書房, 全 176 頁

〔雑誌論文〕(計 2 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 1 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6．研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名： 諸井克英

ローマ字氏名： Katsuhide MOROI

所属研究機関名： 同志社女子大学

部局名： 生活科学部

職名： 特任教授

研究者番号(8桁)： 80182286

### (2)研究協力者

なし

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。